

# 3月市議会

# 市民のくらしを守る市政に

## 中林議員が本会議で討論



3月定例市議会が21日に閉会しました。最終日の本会議で中林議員が討論をおこないました。

中林議員は、はじめに寝屋川市職員定数条例の一部改正について、「この数年、毎年100人前後の退職者がありながら、多様な雇用形態の名のもとでアルバイト、パート、非常勤職員、民間委託など、非正規雇用を増やしてきたことは問題。とくに、専門職分野は、これまで蓄積してきた行政の経験、能力をしっかりと引き継ぐために正職員の採用が必要。さらに、職員を削減する条例改正には賛成できない」と述べました。

### 市民の切実なねがいに 背をむける姿勢をやめよ

また、08年度一般会計予算について、中林議員は、「白・公政権の構造改革で所得格差が広がり、市民生活の困難が続いている中、寝屋川市が第一におこなうべきことは、市民生活を守るために一杯の努力をおこなうこと」と述べ、「来年度予算で妊婦健診公費負担の拡充等については

### 大型開発優先 見直し求める

中林議員は、さらに「来年度予算は、市駅東地区・香里園駅東地区の2つの再開発事業、寝屋南土地地区西整理事業、第2京阪道路関連事業などの土木事業は、合わせると約20億円にもぼる。市民には財政危機を理由に施策を後退させながら、大型開発は最優先にすすめることは市民の理解がえられない」として「市の人口減少が著しい本市がすすめるべきではない事

評価できるが、高い国保税・介護保険料の負担軽減や障害者施策の市独自軽減策に感じない、公立保育所の民営化を一路推進、商店の営業が厳しいときに大型店の誘致をすすめるなど市民の切実なねがいに背を向ける寝屋川市の姿勢は容認できない」と、厳しく問題点を指摘しました。

は、生活道路の改善、交通安全・バリアフリー対策、緑を残して住みやすい住環境の整備、高齢者の足としての公共交通機関の充実など、住みつけられるまちづくりをすすめるべき」と大型開発優先の見直しをもとめました。

詳しくはホームページ「議会報告」をご覧ください。

**視界**  
いま、福祉施設現場で労働者不足が深刻になっていいます▼日本共産党がおこなった「障害者自立支援法の影響調査」の中で、事業所の職員定数の2割にのぼる離職者があることが明らかにになりました。求人募集したが「応募者が募集人数に足りなかった」「職員が仕事をやめる、集まらなかつた理由に「労働がきつい上に、賃金が低い」が共通してあげられています▼市内の障害者施設(すばる・北斗福祉作業所)で正職員として働く30歳後半のある青年の手取りは月に15万円程度。仕事終了の定時は午後5時15分ですが、書類の整理などで月平均で午後9時頃まで無給の残業をしているといいます▼すばる・北斗福祉作業所は、どんなに障害が重くても通所できる施設として公立公営で運営してきました。ところが、市は2年前、指定管理者制度を導入し、障害者家族・関係者が設立した法人に運営を委託しました▼重度障害者を受け入れるためには、対応できる職員数と経験が必要とされます。先の青年は「仕事はやりがいがある。しかし、先の生活設計が立たない」といいます。本来寝屋川市が公的責任で運営すべき障害者施設を民間法人に委託をしているのですから施設職員として働きつけられるだけの賃金の保障はおこなうべきです▼そうでなければ法人や職員の熱意や頑張りだけでは重度障害者の受け入れには限界があるからです。

# 寝屋川民報

議会議会版

発行  
日本共産党  
寝屋川市議員団  
824-1181  
(内線 2399)  
FAX No. 824-7760  
Email: jcpncc@cc-net.or.jp  
No. 2117

太田 とおる  
高柳2丁目49-2  
TEL 826-1664

田中 ひさ子  
国松町10-36  
TEL 823-1714

寺本 とも子  
豊里町38-1-105  
TEL 829-8424

中林 かずえ  
宝町4-33  
TEL 859-2289

中谷 光夫  
高宮2-19-5  
TEL 823-5947

松尾 信次  
下木田町12-6  
TEL 821-7427